

なし新品種「にっこり」の育成

1. 育種のねらい

本県のなし栽培では、「豊水」より晩生で品質の優れた品種が少なく、しかも「幸水」、「豊水」の2品種で栽培面積の90%を占めており、作業労力の集中、災害や価格変動に弱いなど、品種構成上問題があった。

そこで、「豊水」より晩生で品質の良い品種の育成を進めてきた。

2. 育成経過

昭和59年に農業試験場本場において、大果で晩生種の「新高」を母親に、品質の良い「豊水」を父親として交配し、種子を採取した。昭和60年に播種し、32個体の実生苗を育成した。昭和61年に実生苗から穂木を採り、「長十郎」に高接ぎし平成元年に第1次選抜をして、系統名「2-11」とした。平成4年から特性調査を実施し、平成6年3月に「にっこり」の名称で品種登録を出願した。平成6年10月に現地調査、平成8年5月内定公表があり、8月22日に登録された。

3. 特性の概要

- (1) 樹勢はやや強く、枝の発生、短果枝及び腋花芽の着生はやや少ない傾向である。
- (2) 開花期は早く「新高」とほぼ同時期である(表-1)。「筑水」、「幸水」、「豊水」、「長十郎」、「新高」、「新興」と交配親和性がある。しかし、自家結実性はない(表-2)。なお、花粉は少ない方である。
- (3) 収穫期は10月下旬で「愛宕」とほぼ同時期で、「豊水」、「新高」より遅く、「新雪」より早く収穫できる(表-1)。
- (4) 果実は、800~900gの大果で、果皮は赤褐色、果形は円である。また、有てい果が混在する。
- (5) 肉質は軟らかく、糖度は12%程度、酸味は弱く、「新高」、「愛宕」、「新雪」より食味は良好である(表-3)。
- (6) 果実への生理障害の発生もなく、日持ちは75日程度と良い品種である。
- (7) 黒星病、黒斑病、輪紋病には強く、通常の防除で十分対応できる。なお、えそ斑点病は病徵発現性であり、紫変色枝枯れ病が、発生することもある。

4. 成果の要約

なし新品種「にっこり」は、昭和59年農業試験場本場において、「新高」に「豊水」を交配して育成したもので、平成8年8月に品種登録された。収穫期は、10月下旬で、果実は赤褐色で800~900gと大果である。果形は円で、肉質は軟らかく、糖度は12%程度、酸味は弱く、食味は良好である。また日持ちは、75日程度と良い。えそ斑点病は病徵発現性である。

(担当者 果樹部 高橋建夫)

表-1 生育特性

品種名	開花期(月.日)			収穫期(月.日)		
	始	盛	終	始	盛	終
にっこり	4.19	4.22	4.25	10.19	10.27	10.31
豊水	4.22	4.24	4.27	9.10	9.22	9.30
新高	4.18	4.21	4.24	10.1	10.13	10.19
愛宕	4.16	4.19	4.24	10.18	10.28	11.4
新雪	4.22	4.24	5.1	10.30	11.6	11.9

注) 栃木農試平成4~7年の平均値。

表-2 にっこりの交配親和性

組み合わせ		結実率	組み合わせ		結実率
(♀)	(♂)	(%)	(♀)	(♂)	(%)
にっこり	筑水	100	幸水	にっこり	84
にっこり	幸水	100	豊水	にっこり	95
にっこり	豊水	94	長十郎	にっこり	95
にっこり	長十郎	90	新高	にっこり	100
にっこり	新興	90	新興	にっこり	80
にっこり	にっこり	0			

表-3 果実品質

品種名	果重	糖度	酸度	硬度
	g	Brix%	pH	ポンド
にっこり	828	12.1	5.09	4.7
豊水	398	12.7	4.59	4.6
新高	584	12.0	4.60	5.9
愛宕	752	12.5	4.24	6.0
新雪	723	12.6	4.34	6.4

注) 栃木農試平成4~7年の平均値。